



伊藤忠プラスチック株式会社

業 種/卸売業
 主な事業内容/各種包装材料の販売等
 従業員数/546人

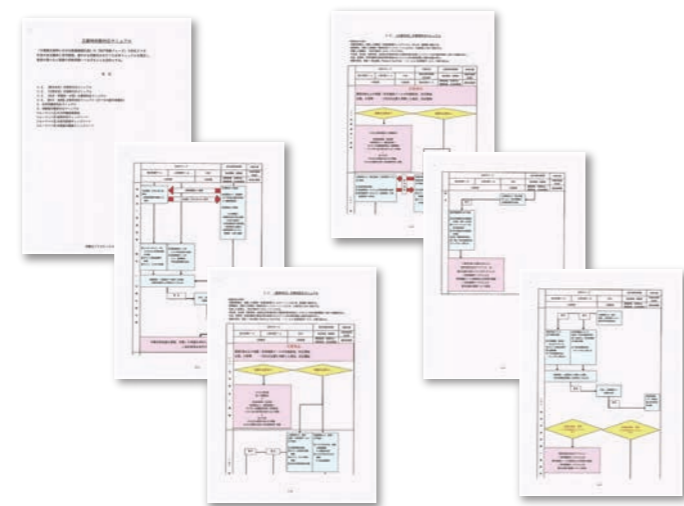
滞在・外出 対応

迅速に初動対応できるよう災害対応をフロー化

災害が発生しても、迅速に混乱なく社員の安全を確保し、事業継続につなげられるよう各種マニュアルを策定している。「災害時初動対応マニュアル」では、災害発生からけが人への応急処置、情報収集、対策本部の立ち上げについてフロー化し、誰がどのタイミングで何をすべきかを明記している。

対策本部長は、災害の状況、交通機関の運行状況や、自治体からの要請を判断基準として、対策本部の立ち上げ及び、社員を帰宅させるか等の判断を行う。

社内待機となった場合は手順に従った食料の配付や、部署ごとに社内待機する社員の把握を進め、帰宅の際も確実に自宅に着いたかをシステムを用いて確認するようにしている。



災害時初動対応マニュアル
 複数の拠点があることから、それぞれの地域に合わせた初動マニュアルを作成している

訓練

災害時をイメージできるよう訓練を定期的実施

●安否確認

訓練は年2回行っている。システムから自動的に全社員に訓練メールが配信され、社員には電話・Web・メールいずれかの方法で回答する訓練を実施している。訓練では、自らの安否を回答できるか、及び社員情報がシステムに登録されているかを確認している。また、災害は平日日中とは限らないことから、休日にも実施している。

●対策本部の立ち上げ

BCPに基づき、災害時には対策本部の立ち上げ可否を判断することとなり、そのプロセスの確認を目的に2020年9月にその立ち上げ訓練を実施した。

震度6強の地震が発生したと想定して、シナリオを用意。社長以下全役員と自衛消防隊も参加し、フロアではアナウンスを流し、全社員がヘルメットを着用し、訓練に参加した。災害時にどの部署がどのような役割を担うのか改めて認識することができ、また本番に近い雰囲気を感じることが出来、有意義であった。



「2020年度対策本部立ち上げ訓練 役割別台本」
 このシナリオに基づいて訓練を実施した

備 蓄

食料の配置を張り紙で掲示

早くから東京都帰宅困難者対策条例に基づき必要な食料を備蓄してきたが、1日目の朝昼晩、さらに2日目、3日目と、食料を分類保管、また配置図を掲示することで担当者不在時、誰でも利用・判断できるようにしている。

フードロスの防止

フードロスを防止するため、賞味期限の近づいたものからフードバンクに寄贈している。ただし、水は引き取ってもらえないため社員に提供したり、災害時の非常用として使用している。



社内滞り時の3日分の食料と簡易トイレと毛布



休憩室の奥が備蓄庫となっている。水や食料などが保管されている。水は1日6本、3日分で18本となるため、膨大な数となる



非常持出袋。帰宅時に必要な用具が入っている。持出袋は入社時に配布される



倉庫の内側に貼ってある倉庫内地図



キャビネット内のランタンと電池